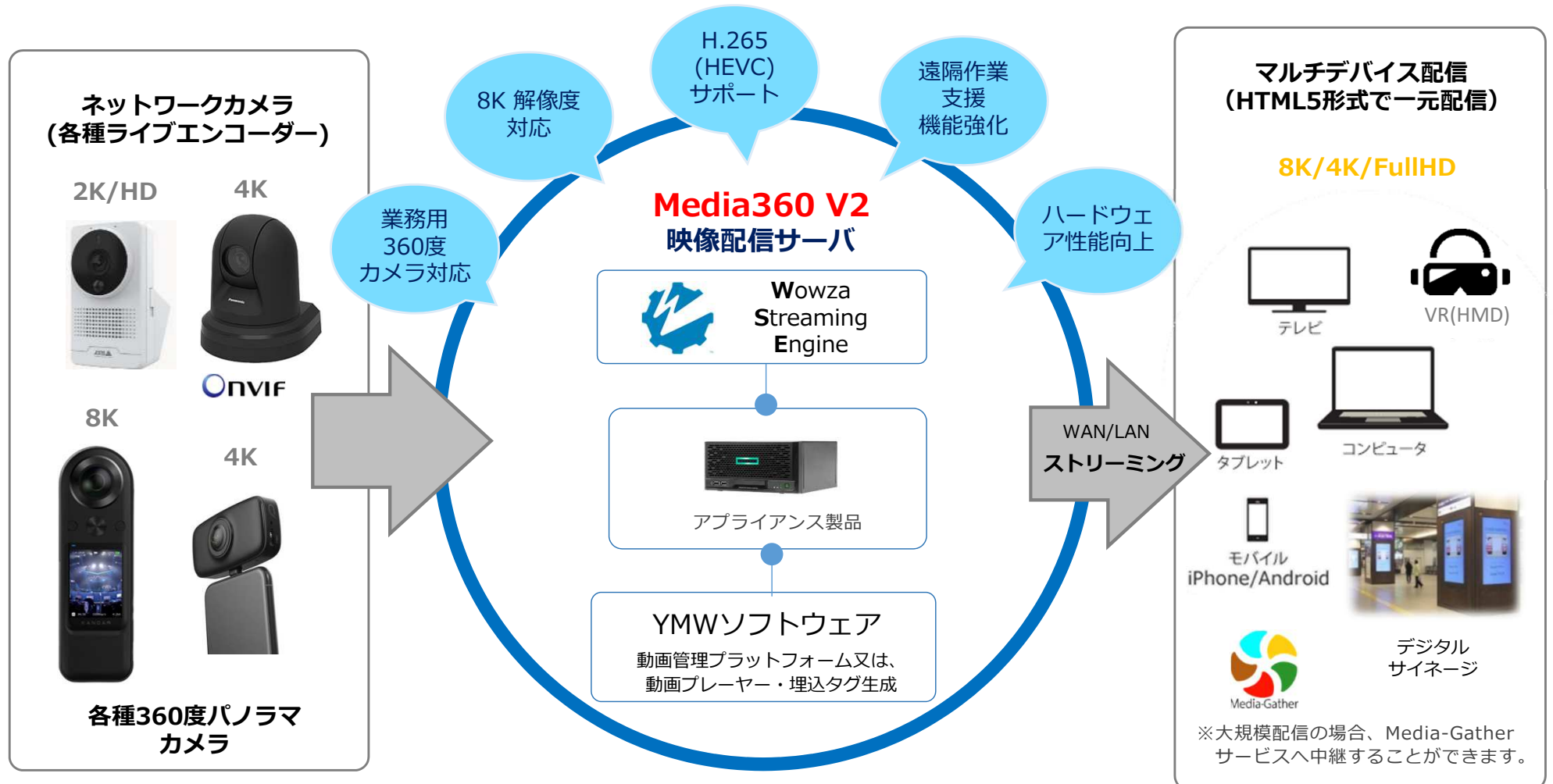


■ 映像配信サーバー「Media360 V2」へのバージョンアップについて

旧Media360からMedia360 V2へ以下の内容でアップデートを実施しました。

Media360用のサーバーハードウェアの性能向上に加え、8K動画、H.265/HEVCビデオなどの新規格への対応や遠隔作業支援機能の強化等、ソフトウェア面も含めたバージョンアップを行いました。



■ 「Media360 V2」バージョンアップの主な内容

1. 8K/UHD解像度のストリーミング配信に対応

従来の4K配信に加え、最大8K UHDのストリーミング配信（ライブ、VOD配信とも）に対応しています。

高画質映像が求められる360度パノラマ動画であっても、スタンドアロン動画と同程度の没入感をストリーミング配信で演出することが可能になります。視聴端末は、パソコンやVRゴーグル等になりますが、8K再生に対応していない端末は、4K解像度の動画へ自動セレクトができますので、マルチデバイスへ一元的なストリーミング配信についても対応可能です。

2. H.265 (HEVC) ビデオコーデックに対応したことで、回線の運用コストを削減

ビデオコーデックとしてH265形式に対応したことで、データ容量を従来の25%~50%圧縮できます。また、FullHD(1080P)の場合、1.5Mb/s、4Kについては3Mb/sのビットレートでライブまたはVOD配信が可能になりますので、データ転送量を抑えるなど、回線運用コストを大幅に軽減することが可能になります。

3. 遠隔作業支援の機能強化

市販のネットワークカメラを本システムに接続できるように機能改良、現場映像を約0.5秒以下の低遅延でモニタリングできるようにしました。また、AXSI製カメラやネットワークスピーカー等を利用する場合は、音声による双方向通話も可能です。これにより、現場の作業者が通話用のスマートフォン端末を持たなくても、遠隔地からの作業指示が可能になります。更に現場にモバイル回線を利用する場合であっても、データ転送量を抑える通信を行いますので、通信コストを大幅に削減することが可能になります。（ご利用の際は、固定IPアドレス付のモバイルインターネット回線をご利用いただく必要があります。）

4. プロ用360度パノラマカメラに対応

民生機として普及しているモノラルの360度ビデオカメラ（ビデオフォーマット）に加え、プロ用360度ビデオカメラで利用する各種ステレオ(3D)ビデオフォーマットに対応しました。左右両眼のステレオ映像を8Kでストリーミング配信できますので、更に高い没入感を体験することが可能です。また、これら高画質で特殊なビデオフォーマットであっても、VRゴーグルやスマートフォン等、標準搭載のブラウザのみで3D映像を体験することが可能です。

5. ハードウェア性能向上（型式変更）

性能向上と製品の長期供給が可能です。

※HPEマイクロサーバー製品の型式が今年5月に刷新され、安定性と性能が向上しています。